

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /26）

**使い方** 声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この章段の山は和歌の「なまし」（反実仮想）と、「鬼一口」が何のたとえかです。

**あらすじ**＝手の届かない女をやっと盗み出した男が、荒れた蔵に女を隠す。雷の夜、鬼が女を一口で食べてしまう。男は「露と答えて、いっしょに消えてしまえばよかった」と嘆く。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

むかし、男ありけり。女の、<sup>①</sup>え得（え）まじかりけるを、年を経て<sup>②</sup>よばひわたりけるを、<sup>③</sup>からうじて<sup>④</sup>盗み出でて、いと暗きに来けり。芥川（あくたがは）といふ河を<sup>⑤</sup>率（る）て行きければ、草の上に置きたりける露を、「<sup>⑥</sup>かれは何ぞ」と<sup>⑦</sup>なむ男に問ひける。

行く先多く、夜もふけにければ、鬼ある所とも<sup>⑧</sup>知らで、神さへいといみじう鳴り、雨もいたう降りければ、<sup>⑨</sup>あばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて、男、弓、<sup>⑩</sup>やなぐひを負ひて戸口にをり。「<sup>⑪</sup>はや夜も明けなむ」と思ひつつゐたりけるに、<sup>⑫</sup>鬼はや一口に食ひてけり。「あなや」と言ひけれど、神鳴る騒ぎに、<sup>⑬</sup>え聞かざりけり。

やうやう夜も明けゆくに、見れば、率て来し女もなし。足ずりをして泣けども、<sup>⑭</sup>かひなし。

白玉（しらたま）か何ぞと人の問ひし時露と答へて<sup>⑮</sup>消えなましものを

語注 えゝまじ＝とてもできそつにない。よばふ＝求婚する。からうじて＝やつとのことで。率（る）＝連れて行く。なむ＝係助詞。結びは連体形。ゝで＝打消の接続助詞（くないで）。さへ＝そのうえゝまでも。あばらなり＝荒れ果てて、すぎまだらけである。やなぐひ＝矢を入れて背負う道具。あなや＝ああ、大変だ。足ずり＝地団駄をふむこと。かひなし＝どうにもならない。白玉＝真珠。なまし＝反実仮想（くだつたらよかったのに）。

## A 語句の意味と読み(1～6)

(1) ②「よばひわたりける」の意味を書け。

(2) ③「からうじて」の意味を書け。

(3) ⑨「あばらなる」の意味を書け。

(4) ⑩「やなぐひ」の読みと意味を書け。

(5) ⑭「かひなし」の意味を書け。

(6) ①の「えゝまじ」は、どのような意味を表すか。

## B 文法(7～12) ※まじ・ば・係り結び・で・なむ・なまし

(7) ①の「まじ」の意味として最も適当なものを書け。(打消推量／不可能／禁止／打消意志)

(8) ⑤「率(ゐ)て行きければ」の「ば」は何形に接続し、どのような意味を表すか。

(9) ⑦で、文末が「問ひけり」ではなく「問ひける」となっているのはなぜか。文法的に説明せよ。

(10) ⑧「知らで」の「で」は文法的に何か。意味も書け。

(11) ⑪の「なむ」を文法的に説明せよ。

(12) ⑮「消えなましものを」の「なまし」に用いられている文法を漢字で書け。

## C 主語と指す内容 (13～15)

- (13) ④「盗み出でて」と⑬「え聞かざりけり」の主語をそれぞれ書け。

- (14) ⑥の「かれ」は何を指すか。

- (15) ⑫「鬼はや一口に食ひてけり」の「鬼」は、実際には何をたとえたものと考えられているか。

## D 口語訳 (16～19)

- (16) ①・②を含む「女の、え得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを」

- (17) ⑥「かれは何ぞ」(誰が誰に言ったことばかが分かるように訳すこと)

- (18) ⑬を含む『あなや』と言ひけれど、神鳴る騒ぎに、え聞かざりけり」

- (19) 和歌「白玉か何ぞと人の問ひし時露と答へて消えなましものを」

## E 内容・記述 (20～23) ★和歌が山

(20) ⑥のことばから、この女はどのような人物だと読み取れるか。簡潔に書け。

(21) 和歌の中の「人」とは、具体的に誰を指すか。

(22) 男が女を「白玉」「露」にたとえたのは、どのような効果をねらったものか。

(23) ⑮「消えなましものを」に表れている男の心情を、反実仮想の意味をふまえて書け。

## F 文学史 (24～26)

(24) 『伊勢物語』のジャンル・主人公のモデルとされる歌人・成立した時代を書け。

(25) 『伊勢物語』以外の歌物語を一つ挙げよ。

(26) 在原業平が選ばれている、すぐれた六人の歌人の総称を漢字で書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「なまし」＝反実仮想。「消えなましものを」＝「(実際は消えなかったが) 消えてしまえばよかったのに」。ここが最頻出。 ②「なむ男に問ひける」は係り結び。「なむ」→連体形「ける」。 ③「鬼一口」は本当に鬼ではない。女を取り返しに来た者のたとえです。